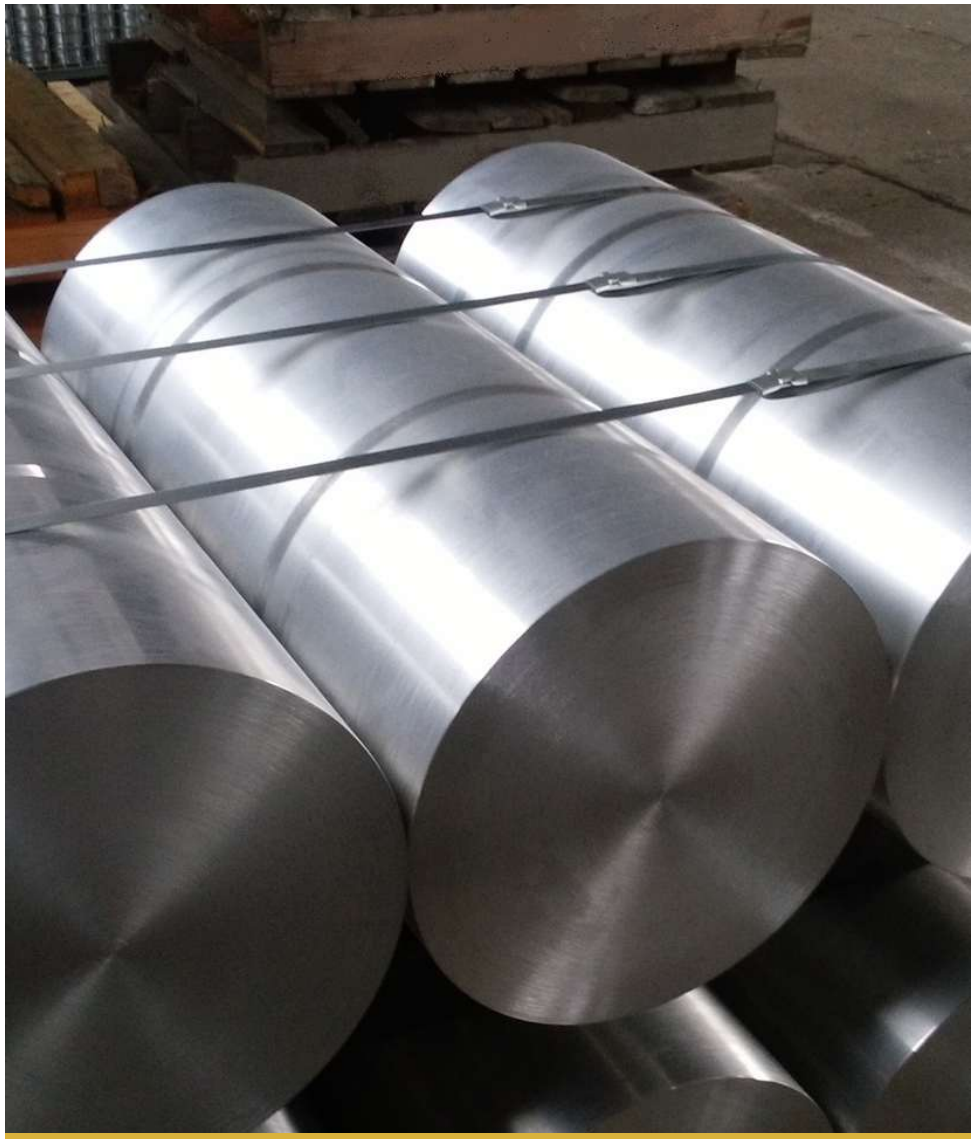
信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

株式会社犀潟鉄工所

DX推進への取り組み

技術承継とデータ活用で、
時間あたりの粗利益を高める
3STEPのDX

公表日　2026年　10月　30日



代表メッセージ

弊社は1956年の設立以来、ステンレスやアルミをはじめとする
金属素材の製造・加工に邁進してまいりました。
しかし現在、人口減少や少子高齢化に伴う採用難により、
若手人材の確保は極めて困難な状況にあります。
その影響は各部門の業務におよんでおり、特に製造部における「生産管理」
「生産技術」「設備技術」の技術承継が喫緊の課題となっています。
弊社はこの現状を打破すべく、DXを強力に推進し、
抜本的な業務変革に挑戦いたします。

株式会社犀潟鉄工所

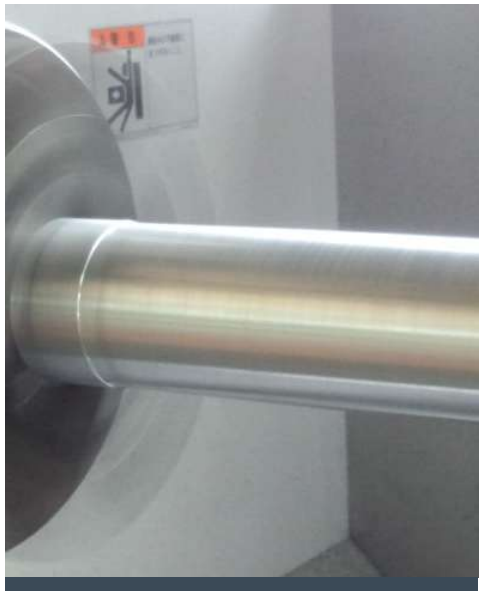
代表取締役　伊倉　達成

私たちの事業

アルミ、ステンレス、チタンなど様々な金属を加工する会社です。自然災害防止に関連する製品の開発も進めています。

アルミ引抜管

引抜技術で、高強度かつ高精度な
アルミ引抜管を製造



アルミ切削材

汎用旋盤やNC旋盤を駆使した、
高精度な切削加工

ステンレス形鋼材

耐食性や強度に優れた
ステンレス素材の研削加工

梱包資材・防災関連製品

輸出梱包資材の販売と、
自然災害防止に関する製品の開発

経営理念とDXビジョン

【経営理念】

**"常に信頼される"を
ベースに優れた製品を
安価で提供し、社会の
発展に寄与する。**

【DXビジョン】

**デジタル技術を活用して全社的な業務効率化を実施。
社内のDX推進で培った知見を地域に還元し、
地域と共に歩む企業を目指す。**

【デジタル活用の方向性】

デジタルを活用して業務を効率化し、すべての従業員が知識やスキルを最大限に
活かして生き生きと活躍できる環境を整備する。

【データ活用の方向性】

各部門の生産実績・作業工数・設備修理履歴等の実績データを、
市販のクラウドサービス等と自作アプリを組み合わせて一元管理し、
会議資料・実績指標（表・グラフ）・標準類の作成を自動化。
業務効率化とリアルタイムな可視化を実現する。

04 ENVIRONMENT / BUSINESS MODEL

信頼と豊かさをあなたに 株式会社 犀潟鉄工所

社会環境の変化と目指すビジネスモデル

人手不足・採用難 → 技術伝承の危機

人に頼る業務 → 誰もが管理・運用

【社会環境の変化】

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、人手不足や
採用難が加速。現場における技術・ノウハウの伝承が滞り、
QCD（品質・コスト・納期）の維持・向上に深刻な影響を及ぼす
リスクが高まっている。

【目指すビジネスモデル】

DXの活用により、誰もが効率的に業務を管理・運用できる
体制を構築し、強固なものづくり基盤を次世代へと継承する。

05 ROADMAP — 3 STEPS

信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

当社は次の３STEPでDX戦略を推進する。

▪ STEP1（1年以内）
「DX推進に向けた土台作り」：

- 各部門の業務フローを可視化し課題を特定、対応策・優先順位付けを行いDX実行計画を策定。
- 全社員対象のDX勉強会を実施。

▪ STEP2（3年以内）
「デジタル化による業務プロセスの改革」：

- DX実行計画を実施。
- 生産管理・生産技術・設備技術業務の属人化解消のため業務を標準化し、デジタル技術を段階導入。
- 生産計画・在庫等の情報を全社共有・管理できる体制を構築。
- 技術者ノウハウ継承のため製造工程の動画・オンラインマニュアルを作成。

▪ STEP3（5年）「継続的なDXの取り組みと新たな価値創出」：

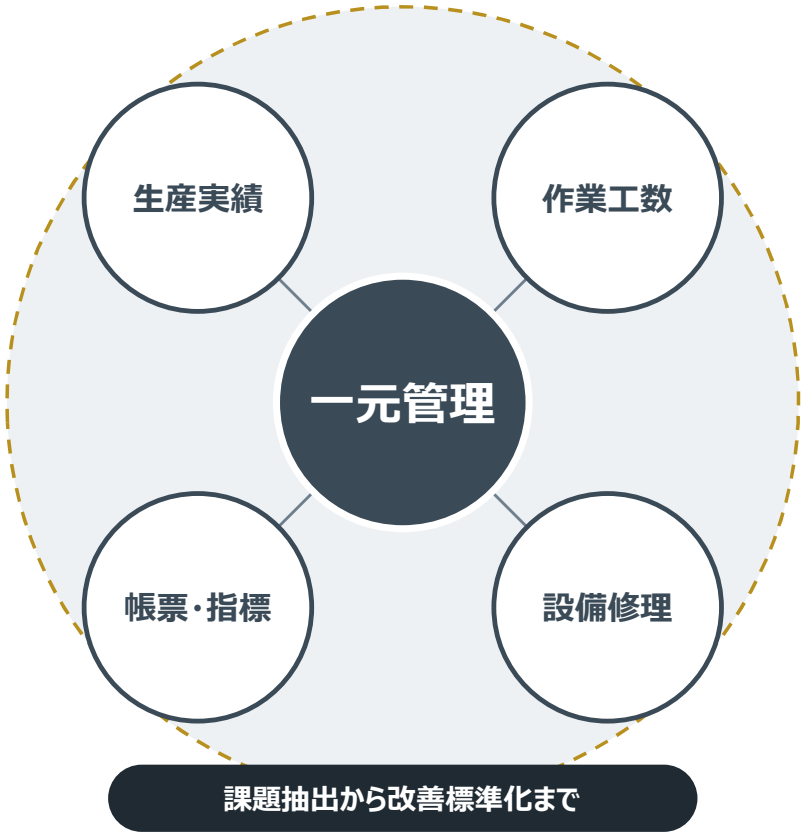
- 成果と課題を総括し継続的な業務改善・DXを推進。
- 創出時間を活用し労働負担軽減と働きやすい職場を実現。
- DX成功事例を上越地域で共有し地域の技術者育成に貢献。

06 DATA STRATEGY

データ活用の戦略

【データ活用】

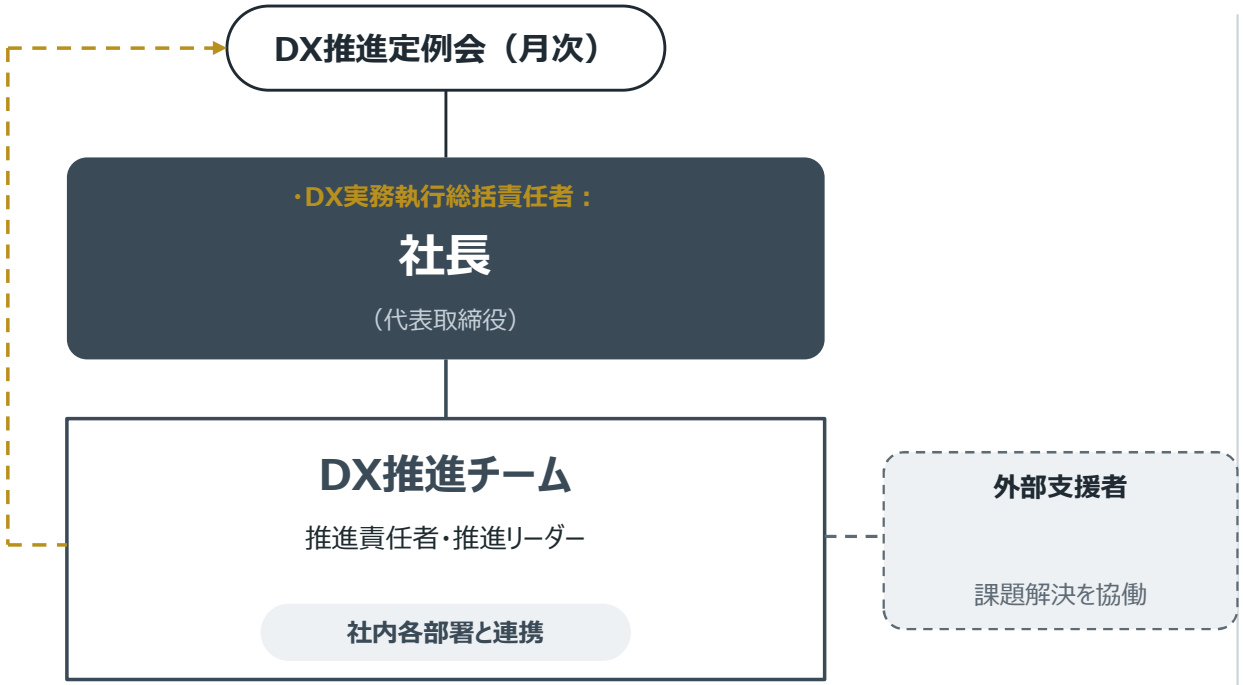
生産実績・作業工数・設備修理履歴等の基幹となる
データは市販のクラウドサービス等で安定して
管理し、自作アプリはそのデータを活用した
帳票・実績指標・標準類の作成の自動化に用いる。
課題抽出から改善標準化までを迅速化し、
全従業員の業務負担軽減と精度向上を実現する。



07 STRUCTURE

信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

DX推進体制



提案・報告／DXの方向性提示

＜推進体制＞

・DX推進責任者（取締役）：
推進リーダーと連携し、外部支援者とも協働して課題解決・予算管理を行う。

・推進リーダー（各部門責任者）：
DXの方向性に沿って現場改善を主体的に推進。

・「DX推進定例会」で経営レベルの
承認・進捗協議を行い、「DX推進チーム」
が実行の中心を担う。

・開催頻度：月次

08 TALENT

信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

＜デジタル人材の育成・確保＞

・育成：

01 ワークショップの開催、

02 外部講習会への参加、

03 社内OJT教育を実施。

・確保：

DX推進定例会で決定した
取組を計画通り実行するため、
営業総務部を中心とする
DX実務部隊（各部門から選出）
を結成する。

09 IT ENVIRONMENT

信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

「ITシステム環境整備」

01

・ネットワーク環境の整備：補助金を活用し全社無線LANを増強（高速Wi-Fi等）し、現場でのデジタル活用基盤を整える。
効果：設備・現場のデータを自動で集める基盤の構築

02

・業務端末の整備：業務用PC・タブレット・スマートフォンを整備し、全従業員がデジタルツールを活用できる環境を構築する。
効果：現場での記録の電子化と、実績のリアルタイムな共有

03

・業務効率化・AI活用：市販のクラウドサービス等の業務効率化ツールを導入し、有料AIを用いて作成する自社アプリと組み合わせて帳票・実績管理を自動化する。
効果：会議資料・実績指標の作成時間の短縮

情報セキュリティ

SECURITY ACTION

★★

・セキュリティ対策：上記整備に併せてセキュリティ対策を実施する。
効果：情報漏えい・システム停止の防止による、安定したデータ活用

【定性指標（いつまでに何をやるか）】

▪ STEP1「DX推進に向けた土台作り」（～2027年8月）

- DX実行計画の策定：各部門の業務フローと課題を整理し、優先順位をつけて完了（～2027年8月）
- 全社員対象のDX勉強会：年2回以上実施（～2027年8月）
- 会議資料作成へのAI活用：手順を整備し運用開始（～2027年8月）
- 設備異常・停止データ：記録方法を統一し、記録を開始（～2027年8月）

▪ STEP2「デジタル化による業務プロセスの改革」（～2029年8月）

- 現場記録の電子化：タブレット等での入力を主要工程で運用開始（～2028年3月）
- 生産計画・在庫情報の全社共有：市販のクラウドサービス等で運用開始（～2028年8月）
- 作業標準書と製造工程の動画・オンラインマニュアル：主要工程で完了（～2028年8月）
- 設備停止データの可視化：月次で分析し、改善活動に活用（～2028年8月）

▪ STEP3「継続的なDXの取り組みと新たな価値創出」（～2031年8月）

- 成果と課題の総括：次期DX計画を策定（～2029年8月）
- 社内DX人材：各部門で改善を自ら企画・実行できる体制を確立（～2030年8月）
- DX成功事例：上越地域で年1回以上共有（～2031年8月）

【定量指標】

紙の使用率

目標

－30%以上

・紙の使用率削減：前年度比（2025年9月～2026年8月） 30%以上削減（～2028年8月）

設備の停止時間

目標

－30%

・設備異常・不具合データを可視化し、チョコ停・トラブル停止時間を前年度比（2025年9月～2026年8月）30%削減する（～2028年8月）。

資料作成の時間

目標

－30%

・会議資料作成と実績指標算出を標準化し、実数値の精度向上と作業時間前年度比（2025年9月～2026年8月）30%削減を両立する（～2028年8月）。

技能承継の期間

目標

－30%

・作業標準書・動画マニュアル等のデジタル技術を活用し、新任者が主要工程を一人で担当できるまでの期間（技能承継期間）を前年度比（2025年9月～2026年8月）30%短縮する（～2028年8月）。

1時間あたりの粗利益

目標

＋10%

・無効作業の削減を図り、1時間あたりの粗利益を前年度比（2025年9月～2026年8月）10%改善する（～2028年8月）。

強固なものづくり基盤を次世代へと継承する

本宣言は　2026年　10月　26日のDX推進定例会で承認しました

株式会社犀潟鉄工所

信頼と豊かさをあなたに
株式会社 犀潟鉄工所

代表取締役　伊倉 達成
〒949-3116　新潟県上越市大潟区犀潟420番地
http://www.saigata.co.jp/